総合型選抜 専門塾　東京修学館

2027年度入試対応

総合型選抜
完全攻略マニュアル

仕組み・年間スケジュール・志望理由書・小論文・面接・出願前の確認

2027年度入試（2027年4月入学）

監修

東京修学館 学長　家近 亮子

慶應義塾大学 博士（法学）／敬愛大学 特任名誉教授／放送大学 客員教授

第8回 樫山純三賞 受賞

tokyoshugaku.com

はじめに

このマニュアルは、総合型選抜（旧AO入試）での受験を考えている高校生と、保護者の方に向けた手引きです。入試の仕組みから、年間の予定、書類、小論文、面接、出願前の確認までを順にまとめました。

内容は、文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」と、各大学の2027年度入試（2027年4月入学）の要項をもとに、東京修学館のサイトで公開している記事から要点を抜き出したものです。監修は、東京修学館 学長の家近亮子です。

このマニュアルの使い方

1 **目次から必要な章を読む**
最初から順に読まなくてもかまいません

2 **募集要項で確かめる**
日程や条件は大学・方式ごとに違います。出願する年度の募集要項で確認します

3 **くわしい記事へ進む**
各章の終わりに、サイトの記事の題とURLを載せています

日付と数字は2027年度入試（2027年4月入学）のものです。例文と質問例は説明のために作った例で、特定の大学の出題ではありません。

目次

第1章 総合型選抜とは …… 3

第2章 年間スケジュール（高2〜高3） …… 6

第3章 評定・欠席・併願の考え方 …… 8

第4章 志望理由書 …… 10

第5章 自己推薦書・活動報告書 …… 13

第6章 小論文 …… 15

第7章 面接 …… 17

第8章 口頭試問・課題レポート …… 20

第9章 出願前のチェックリスト …… 22

よくある質問 …… 23

無料相談の案内・監修者・出典 …… 24

第1章

総合型選抜とは

総合型選抜は、一般選抜、学校推薦型選抜と並ぶ大学入試の区分の一つで、以前は「AO入試」と呼ばれていました。文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」は、総合型選抜を「詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法」と定義しています。

学校長の推薦がなくても、大学が示す出願資格を満たせば、自分の意志で出願できます。

総合型選抜の要点（2027年度入試）

出願の開始	合格発表	入学者（令和7年度）	実施している大学
9月1日以降	**11月1日以降**	**126,766人**	**728大学**
2026年。大学ごとに日程は違う	共通テストを課す方式は2月	入学者全体の19.5%	全体の93.6%（令和7年度）

実施要項が定める決まり

実施要項が定める総合型選抜の決まり

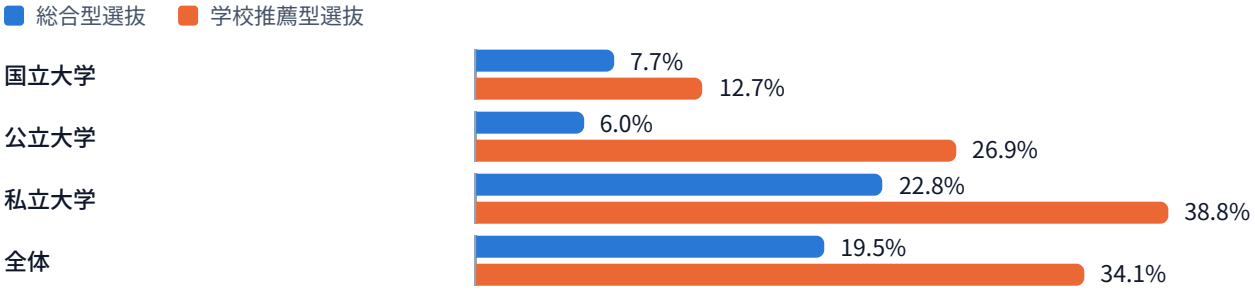
決まり	内容
公募制	入学志願者が自分の意志で出願できる
本人が書く書類	活動報告書、大学入学希望理由書（志望理由書）、学修計画書などを、必ず評価に活用する
面接など	志望する学問分野への意欲や適性を見る面接を、必ず行うと定められている。ディベート、集団討論、プレゼンテーション、口頭試問を含み、オンラインでの実施もある。以前からある方式には、令和11年度入試までの経過措置がある
学力の評価	調査書などの出願書類だけでなく、教科の試験、共通テスト、小論文・面接・口頭試問など、資格・検定試験のうち少なくとも一つを使う。何を使うかは募集要項に書かれる

経過措置：令和8年度にすでに実施されていた選抜区分で、面接の導入が難しいものは、遅くとも令和11年度入試までに導入する（第14 備考）。2027年度入試には、早稲田大学の地域探究・貢献入試のように、面接のない方式もある。出典：文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」

総合型選抜で入学する人の割合

文部科学省が公表した令和7年度入学者選抜の実施状況によると、総合型選抜で大学に入学した人は126,766人で、入学者全体の19.5%でした。学校推薦型選抜は221,415人で、全体の34.1%です。総合型選抜はほとんどの大学で実施されています。ただし国公立大学では、総合型選抜で入学する人の割合が小さいことが分かります。

総合型選抜・学校推薦型選抜で入学した人の割合（令和7年度）



国立・公立・私立それぞれの入学者全体に占める割合。出典：文部科学省「令和7年度国公私立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」（令和7年11月26日）

ほかの入試との違い

総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜の違い（2027年度入試）

項目	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般選抜
出願の条件	本人の意志で出願できる（公募制）	出身高校の学校長の推薦が必要	推薦は不要
主な評価資料	詳細な書類審査と、時間をかけた丁寧な面接など	調査書を主な資料とし、推薦書、面接など	学力検査、小論文などを主な資料とし、調査書、面接、本人が書く書類などを組み合わせる
面接	必ず行うと定められている（経過措置あり）	必ず行うと定められている（経過措置あり。指定校制で入学を確約する方式は大学の判断）	大学・方式による
出願の開始	2026年9月1日以降	2026年11月1日以降	試験期日に応じて大学が定める
合格発表	2026年11月1日以降	2026年12月1日以降	2027年3月31日まで
試験の時期	大学ごとに設定	大学ごとに設定	個別試験は2027年2月1日から3月25日まで

出典：文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」の「第3 入試方法」「第4 試験期日等」

総合型選抜と学校推薦型選抜のいちばんの違いは、出願に学校長の推薦が要るかどうかです。総合型選抜でも、高校の先生が書く評価書や推薦書の提出を求める方式があります。

旧AO入試から変わったこと

項目	AO入試（2020年4月入学まで）	総合型選抜（2021年4月入学から）
学力の評価	基礎学力の把握は、大学の検査、大学入試センター試験、資格・検定試験、評定平均値のうち少なくとも一つでよかった	調査書などの出願書類だけでなく、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目のテスト、資格・検定試験の成績、大学入学共通テストなどの少なくとも一つを必ず使う
出願の開始	8月1日以降	9月以降
合格発表	実施要項に時期の定めはなかった	11月以降

入試の名前に「AO」を残している大学もある（慶應義塾大学の総合政策学部・環境情報学部、東北大学、同志社大学商学部など）

選考で使われるものと、出願から合格までの流れ

総合型選抜の選考方法

選考方法	内容
本人が書く書類	志望理由書（大学入学希望理由書）、活動報告書、学修計画書、自己推薦書など
調査書	高校での成績（評定）、出欠の記録、活動の記録。出願書類として提出する
面接	個人面接、集団討論、ディベート、プレゼンテーション、口頭試問
小論文・エッセイ	課題文や資料を読んで論じる。講義を聞いて論述する形式もある
資格・検定試験	英検やTOEFLなど4技能を測る英語の試験など。出願資格にする大学もある
大学入学共通テスト	国公立大学に多い。基準の得点率を示す方式もある
教科・科目の試験	大学独自の筆記試験

大学がアドミッション・ポリシー（求める学生像）に応じて、複数の方法を組み合わせる

総合型選抜の出願から合格までの流れ

1. **募集要項を確認する**
   出願資格、提出書類、選考方法、専願かどうかを読む
2. **エントリー・事前の手続**
   出願の前に、Web登録や事前課題、面談を求める大学がある
3. **出願**
   志望理由書、活動報告書、調査書などを提出する
4. **第1次選考**
   書類審査。通過した人だけが次に進む方式がある
5. **第2次選考**
   面接、小論文、プレゼンテーション、筆記試験など
6. **合格発表・入学手続**
   共通テストを課す方式は、共通テストの後に最終の合否が決まる

段階の数と内容は大学・方式で違う

メリットとデメリット

総合型選抜のメリットとデメリット

観点	メリット	デメリット・注意点
評価されるもの	学力試験の点数だけでなく、探究や活動、学ぶ意欲が評価される	合否の基準が点数ほどはっきりせず、結果の理由が分かりにくい
時期	共通テストを課さない方式は、年内に合否が分かる	出願が9月から始まるため、高3の夏までに書類を仕上げる必要がある
準備の中身	志望理由を掘り下げる中で、大学で学びたいことが固まる	書類・小論文・面接の準備に時間がかかり、大学ごとに作り込みが要る
受験の機会	一般選抜の前に、受験の機会が増える	専願や第一志望が条件の方式では、合格したら入学が前提になる
学力	文章を書く力、説明する力は、一般選抜や入学後の学びにも生きる	学力の評価は総合型選抜でも行われる。不合格に備えて一般選抜の学習を並行する

総合型選抜に向いているかの確認

- ✓ 大学で学びたいテーマが具体的にある
- ✓ 自分の考えを文章と口頭で説明する練習に取り組める
- ✓ 高3の夏までに書類を仕上げる時間を取れる
- ✓ そのテーマにつながる探究・活動・読書の経験がある
- ✓ 募集要項を自分で読み、出願資格を確かめられる
- ✓ 一般選抜の学習を並行して続けられる

当てはまる項目が多いほど、総合型選抜で力を出しやすい

くわしい記事

総合型選抜とは https://tokyoshugaku.com/guide-souken-complete/
総合型選抜と学校推薦型選抜の違い https://tokyoshugaku.com/guide-souken-vs-suisen/

第 2 章

年間スケジュール（高2〜高3）

総合型選抜は、高3の9月に出願が始まり、年内に結果が出ることの多い入試です。評定は高1の成績から入り、書類に書く経験は出願の前にしか積めません。準備は高2のうちに始めるのが目安です。入試の時期には全国共通の決まりがあり、文部科学省の実施要項が「これより前には行わない」という時期を定めています。実際の日程は大学ごとに決まります。

2027年度入試（2027年4月入学）の日程の基準

項目	時期	補足
総合型選抜の出願	2026年9月1日以降	入学願書の受付を始められる日
大学入学共通テストの出願	2026年9月15日〜10月2日	総合型選抜の合格発表より前に締め切られる
総合型選抜の合格発表	2026年11月1日以降	判定結果を発表できる日
学校推薦型選抜の出願	2026年11月1日以降	学校長の推薦が必要な入試
学校推薦型選抜の合格発表	2026年12月1日以降	一般選抜の試験期日の10日前まで（共通テストを使う場合は前日までのなるべく早い時期）
大学入学共通テスト	2027年1月16日・17日	追試験は1月23日・24日
教科・科目の個別テスト	2027年2月1日〜3月25日	一般選抜の個別試験など。合格者の発表は3月31日まで

出典：文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」の「第4 試験期日等」。共通テストの出願期間は大学入試センター「令和9年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」

高2の春から高3の冬までの流れ

総合型選抜の年間スケジュール（高2の春から高3の冬まで）

高2 4〜7月
学びたい分野と大学を調べ始める
評定を保ちながら、興味のある分野と、その分野を学べる大学・学部を書き出す

高2 夏休み
大学を見に行き、活動に取り組む
オープンキャンパスに参加する。探究や課外活動は記録を残しながら進める

高2 9〜12月
活動を続け、資格・検定を受ける
英語などの検定を受けて、志望校の基準との差を確かめる

高2 1〜3月
志望校の候補を絞り、経験を整理する
公開されている募集要項で出願資格を確かめ、書類の材料になる経験を書き出す

高3 4〜6月
新しい募集要項を確認し、志望理由書の初稿を書く
出願資格、提出書類、日程を表にまとめる。評定に入る最後の定期テストがあることが多い

高3 7〜8月
書類を仕上げ、小論文と面接の練習を始める
出願登録が8月に始まる大学もある。添削を受けて書き直す

高3 9〜10月
出願と選考
総合型選抜の出願が始まる。大学入学共通テストの出願もこの時期

高3 11〜12月
合格発表と、次の出願の判断
総合型選抜の合格発表が始まる。学校推薦型選抜の出願は11月1日以降

高3 1〜3月
共通テストと一般選抜
共通テストを課す方式の合格発表は2月。一般選抜の個別試験は2月1日から

時期は2027年度入試（2027年4月入学）の決まりに基づく目安。実際の日程は大学・方式ごとに違う

高校3年生の時期別にやること

高3の春・夏・秋・冬にやること

時期	やること
春（4〜6月）	募集要項を読み、出願資格、提出書類、字数、日程、専願かどうかを表にまとめる。1学期（前期）の定期テストは、出願時点の評定に入る最後の機会になることが多い。志望理由書の初稿を書く。推薦書や評価書が必要な方式では、先生に早めに相談する
夏（7〜8月）	添削を受けて書類を書き直す。小論文は志望校の出題の形を調べ、時間を計って書く。面接は想定質問を作り、声に出して答える。併願の可否、選考日の重なり、入学手続の締切を確かめて出願校を決める
秋（9〜11月）	出願する。必着か消印有効かを確かめる。共通テストには、総合型選抜の結果を待たずに出願する。一次の発表から二次までが短い大学があるので、発表を待たずに二次の準備を進める
冬（12〜3月）	合格した場合は入学手続の期限を守る。共通テストを課す方式は、1月16日・17日の共通テストを受けて2月の発表を待つ。結果がまだ出ていない、または不合格だった場合は一般選抜に出願する

主な大学の出願時期（2027年度入試の例）

「9月1日以降」は入学願書の受付についての決まりです。大学によっては、Webでの出願登録や事前の手続きが8月以前に始まります。志望大学が決まったら、出願期間だけでなく、その前の登録や申込の日程も確かめてください。

総合型選抜 主な大学の出願時期と合格発表（2027年度入試）



帯は、Webでの出願登録が始まる日から出願期間の最終日まで（登録の開始日が別に示されていない大学は出願期間）。東北大学の登録の開始日は予定。8月〜12月は2026年、1月・2月は2027年。成蹊大学の法学部は合格者発表が12月5日。各大学の2027年度募集要項による

この8つの中では、共通テストを使わない方式は8月から10月に出願し、11月から12月に結果が出ています。共通テストを課す大阪大学と東京科学大学は、合格発表が2月です。総合型選抜の準備をしていても、教科の学習は続けます。不合格だった場合に一般選抜などを受けることになるため、また総合型選抜でも学力が評価されるためです。

くわしい記事

総合型選抜のスケジュール https://tokyoshugaku.com/guide-schedule-koukou2/

第3章

評定・欠席・併願の考え方

評定の基準、欠席日数の条件、併願の可否は、大学・方式ごとに違います。この章では、考え方と、2027年度入試の要項にある例を整理します。条件は年度によって変わることがあるので、出願する年度の募集要項で確かめてください。

評定平均の計算と区分

評定平均は、調査書の「全体の学習成績の状況」のことです。単位数による重み付けはなく、保健体育や芸術などの科目も同じ1科目として数えます。

評定平均の計算の手順（文部科学省の通知の例）

1 すべての科目の評定を合計する
保健体育、芸術、家庭、情報も同じ1科目として入れる。例では合計が120

2 評定の数で割る
単位数では重み付けしない。例では評定の数が31で、120 ÷ 31 ＝ 3.87

3 小数点以下第2位を四捨五入する
四捨五入は最後に1回。例では評定平均は3.9になる

出典：文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」の別紙「調査書記入上の注意事項等について」

学習成績概評（A〜E）の区分

学習成績概評	全体の学習成績の状況
A	5.0 〜 4.3
B	4.2 〜 3.5
C	3.4 〜 2.7
D	2.6 〜 1.9
E	1.8 以下

区分は全国共通

評定平均に入る成績（現役生）

学年・時期	評定平均との関係
高1	最初の学期から計算に入る
高2	すべての学期が入る
高3の1学期（前期）	秋に出願する場合、出願時点の評定に入る最後の成績になることが多い
高3の夏以降	秋に出願する方式の評定には、入らないことが多い

評定の条件の例（2027年度入試）

評定平均の基準を出願資格にしている方式と、していない方式があります。全体の値だけでなく、特定の教科の評定を条件にする方式もあります。

総合型選抜などの評定の条件の例（2027年度入試）

大学・方式	評定の条件
慶應義塾大学 法学部FIT入試 A方式	条件なし
慶應義塾大学 法学部FIT入試 B方式	指定の各教科（外国語・数学・国語・地理歴史・公民）と全体がいずれも4.0以上
早稲田大学 社会科学部 全国自己推薦入試	4.0以上
明治大学 文学部 自己推薦特別入試	3.5以上（西洋史学専攻は英語4.0以上も必要）
関西学院大学 探究評価型	評定3.5以上、または英語資格のどちらか
京都大学 特色入試（総合人間学部・教育学部）	4.3以上
お茶の水女子大学 新フンボルト入試	学習成績概評がA段階以上であることが「望ましい」（出願の要件ではない）

各大学の2027年度入試の要項による

基準がない方式でも、調査書は提出します。成績は書類審査や面接の資料になります。

欠席日数

調査書には「出欠の記録」の欄があり、大学に提出されます。欠席日数の上限を出願資格に書いている方式もあります。

欠席日数の条件の例（2027年度入試）

大学・方式	欠席日数の条件
慶應義塾大学 理工学部 分野志向型入試	調査書の欠席日数の合計が30日を超えないこと
早稲田大学 社会科学部 全国自己推薦入試	45日以内（本人に帰責されない理由による欠席は配慮の対象）
早稲田大学 人間科学部 FACT選抜	合計40日以内
早稲田大学 スポーツ科学部 スポーツサポート歴入試	欠席日数の定めはない

各大学の2027年度入試の要項による

実施要項は、病気・事故など本人に帰責されない身体・健康上の理由によるやむを得ない欠席で、志願者が不利益を被らないよう配慮することを定めています。欠席が多い理由がある場合は、担任の先生に相談し、調査書への記載や大学への申し出の方法を確かめてください。

併願（専願と併願）

総合型選抜には、合格したら入学することを条件にした「専願」の方式と、他大学と併願できる方式があります。どちらかは大学・方式ごとに募集要項で決められています。

専願・併願の扱いの例（2027年度入試）

扱い	大学・方式	要項の内容
併願できる	中央大学 総合型選抜	自由応募制で、他大学や他学部と併願できる（文学部の社会学専攻・心理学専攻は、入学の確約が要件）
併願できる	立教大学 自由選抜入試	出願は1学科（専修）のみ。一般選抜や他大学との併願はできる
第一志望が条件	立命館大学 AO選抜入学試験	専願ではなく他大学と併願できるが、第1志望であることが出願資格で、合格したら入学することが前提
第一志望が条件	慶應義塾大学 法学部 FIT入試	他大学への出願は禁止されていないが、第一志望で、合格したら入学を確約する。一般選抜とは併願できる
専願	関西学院大学 総合型選抜	第一志望で、合格したら入学する。審査日以降は辞退できない
専願	大阪大学 総合型選抜	専願。出願できるのは1つの選抜・1つの学部学科だけ

各大学の2027年度入試の要項による

出願前に確かめる併願の条件

- ✓ 専願かどうか：「合格した場合は入学を確約する」「第一志望とする」といった記載があるか
- ✓ 他大学・他方式との併願：別の方式や学校推薦型選抜と同時に出願できるか
- ✓ 入学手続の期限と納入金：併願できる方式でも、手続の期限までに入学金などを納める必要がある

実施要項では、3月31日までに入学辞退の意思を示した人には、原則として授業料などを返還することとされている。ただし、専願の方式に合格して入学手続をした人は、この対象から除かれている

くわしい記事

評定平均とは？計算方法・学習成績概評（A〜E）・上げ方 https://tokyoshugaku.com/guide-hyoutei-heikin/

総合型選抜のメリット・デメリット https://tokyoshugaku.com/guide-souken-merit-demerit/

第4章

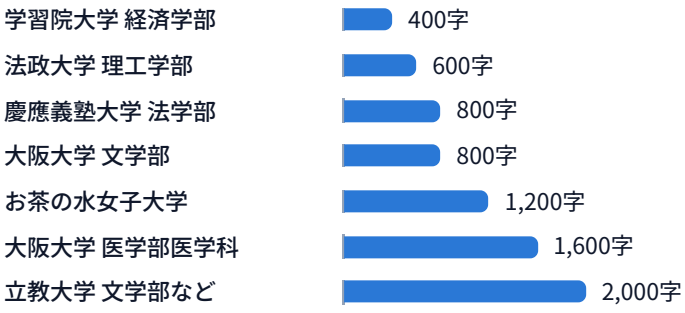
志望理由書

志望理由書は、「なぜこの大学・学部で学びたいのか」を伝える書類です。文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」は、総合型選抜について、志願者本人が記載する資料を「必ず評価に活用する」と定めています。提出した志望理由書は、面接で質問のもとにもなります。自分の言葉で説明できることだけを書きます。

字数・様式・設問は大学ごとに違う

書き始める前に、志望する大学の募集要項と様式を確認します。字数、書き方（自筆か入力か）、設問は、大学・学部・方式によって大きく違うためです。たとえば慶應義塾大学法学部のFIT入試は、なぜ法学部で学ぼうと考えたのかと、その学びが将来にどのような意味を持ちうるのかを問います。大阪大学文学部は、取り組みたい学問的探究を、読書経験などをふまえて書く設問です。設問は要素に分け、すべてに答えます。

志望理由書の字数の例（2027年度入試）



幅のある指定は上限の字数で示した（学習院大学は300〜400字、法政大学は400〜600字）。各大学の2027年度入試の募集要項による

字数の指定の読み方

指定の書き方	書く分量の目安
「800字以内」	上限を超えない。9割前後（720字前後）を目安に、少なくとも8割は書く
「800字程度」	800字の前後1割（720字から880字）に収めるのが目安。入力欄に字数の上限がある場合は、その上限に従う
枠や行数だけ	枠の9割前後を、読みやすい大きさの字で埋める

書き上げるまでの手順

志望理由書を書き上げるまでの手順

1 募集要項を確認する
字数、様式、設問、出願の締切を確かめる

2 材料を集める
自己分析、大学研究、将来像をメモに書き出す

3 一文にまとめる
きっかけ、問い、学びたいこと、将来の目標を一文でつなぐ

4 構成メモを作る
4つの部分に、書く内容を箇条書きで割り振る

5 下書きを書く
字数を気にせずに書き、あとで指定の字数まで削る

6 添削を受けて書き直す
第三者に読んでもらい、直してから清書する

第1稿を出願の1か月以上前に書き上げておくと、書き直しの時間を取れる

一文にまとめる型と例

型：私は〔きっかけ〕から〔問い〕を持ち、〔この大学・学部の学び〕で〔学びたいこと〕を学び、〔将来の目標〕につなげたい。

例：私は商店街の聞き取り調査から「店を次の世代に引き継ぐ仕組みはどう作れるか」という問いを持ち、経済学部でデータに基づく地域分析を学び、地域の事業承継を支える仕事につなげたい。

構成と字数の配分

志望理由書の基本の構成（4つの部分）

部分	書くこと	書くときの注意
1. 結論	何を学びたくて、この大学・学部を志望するのか	1〜2文で言い切る
2. きっかけと問い	関心を持った経験、自分で調べたこと、そこから生まれた問い	経験は一つに絞る
3. この大学・学部で学びたいこと	カリキュラムやゼミ、研究分野と、自分の問いの結びつき。入学後の計画	最も多くの字数を使う
4. 将来の目標	卒業後に取り組みたいことと、大学での学びとの関係	新しい話題を出さずに結ぶ

志望理由書 800字の字数配分の目安



- 結論 **80字**
- きっかけと問い **240字**
- この大学・学部で学びたいこと **320字**
- 将来の目標 **160字**

字数別の配分の目安

部分	400字	600字	1,200字	2,000字
結論	40字	60字	100字	150字
きっかけと問い	120字	180字	350字	600字
学びたいこと	160字	240字	500字	850字
将来の目標	80字	120字	250字	400字

配分は目安。どの字数でも、学びたいことに最も多くの字数を使う

書き出しの型

書き出しの役割は、読む人に「何を学びたい人なのか」を最初に伝えることです。1文目、遅くとも2文目までに、学びたい内容が分かるようにします。

志望理由書の書き出し 4つの型

型	1文目に置くもの	向いている場合
結論型	学びたいことと志望の意思	字数が短い場合。迷ったらこの型
将来像型	将来の目標	医療や教育など、職業と学部が結びついている場合
経験型	きっかけになった具体的な場面	字数に余裕がある場合
問い型	自分が持っている問い	探究学習や読書から関心が生まれた場合

書き出しの例｜結論型

私は、地域の公共交通を維持する方法を政策の面から学びたいと考え、貴学政策学部を志望します。

書き出しの例｜問い型

同じ日本語で書かれているのに、なぜ千年前の文章は読めないのか。古典の授業で持ったこの問いを、貴学文学部で日本語の歴史を学ぶことで確かめたいと考えています。

避けたい書き出しと直し方

避けたい書き出し	伝わらない理由	直し方
「私は貴学の〇〇学部を志望します。」だけで終わる	何を学びたいのかが分からない	学びたい内容を同じ文に入れる
「貴学は長い伝統と充実した設備を持ち…」と大学の紹介から入る	大学の説明で、自分の理由になっていない	主語を「私」にして、自分の関心から書く
「現代社会ではグローバル化が進み…」と一般論から入る	誰が書いても同じ文になる	自分が見た場面や、調べた事実から始める

書き終えたら、大学名を別の大学に入れ替えて読む。そのまま通じる場合は、その大学を選んだ理由がまだ書けていない

例文（800字以内の指定を想定）

経済学部を志望する受験生を想定した創作で、文体はです・ます調にしています。構成と字数の配分を確かめるための例です。

例文｜経済学部・800字以内の指定（746字）

私は、地方の商店街が人口の減る中でも商いを続けていける仕組みを、経済学の方法で考えたいと思い、貴学経済学部を志望します。

きっかけは、高校2年の探究学習で、地元の商店街の空き店舗を調べたことです。祖父が営む文具店の周りでも、閉店する店が続いていました。私は店主の方々15人に聞き取りを行い、店を閉めた理由や、閉めようと考えている理由を尋ねました。予想していた「客が減ったから」という答えよりも、「後を継ぐ人がいないから」という答えのほうが多く、驚きました。売上があっても店が続かないのであれば、必要なのは集客の工夫だけではないはずです。この調査から、事業を次の世代に引き継ぐ仕組みはどうすれば作れるのか、という問いを持つようになりました。

貴学経済学部を志望する理由は二つあります。一つ目は、1年次からミクロ経済学と統計学を基礎から学び、データに基づいて地域の課題を分析する力を身につけられることです。聞き取りだけでは、私の町で起きていることが他の地域にも当てはまるのかを確かめられませんでした。二つ目は、〇〇教授のゼミで、中小企業の事業承継を対象にした実地調査が行われていることです。オープンキャンパスの模擬授業で、後継者のいない店と、開業を希望する人を結びつける取り組みを知りました。自分の問いに直接つながる研究だと感じました。入学後は、2年次までに分析の方法を身につけ、3年次からはゼミで商店街を対象にした調査に取り組みたいと考えています。

卒業後は、地方自治体や地域の金融機関で、店を引き継ぎたい人と、続けてほしい店をつなぐ仕事に携わりたいと考えています。祖父の店がある商店街のような場所を、次の世代が商いを始められる場所にすることが私の目標です。貴学での4年間の学びを、その土台にします。

例文の字数は、第1段落（結論）60字、第2段落（きっかけと問い）258字、第3段落（この大学・学部で学びたいこと）303字、第4段落（将来の目標）125字です。経験や数字は創作なので、自分が実際に経験し、面接で説明できることに置き換えます。「〇〇教授」のように伏せた部分は、大学の公式サイトで確かめた正式な名称を書きます。

締め方と文体

最後の段落の役割は、大学での学びと将来の目標を結びつけて終えることです。新しい経験や実績は書き足しません。文体は、指定がなければ、です・ます調でも、だ・である調でもかまいません。一つの文章の中で混ぜないことが大切です。一文は60字前後までを目安にし、長くなった文は二つに分けます。

締め方の例｜将来の目標で結ぶ

卒業後は、自治体の職員として、高齢者が車を手放しても暮らせる地域づくりに携わりたいと考えています。貴学で学ぶ政策の評価の方法を、その仕事の土台にします。

志望理由書 提出前のチェックリスト

- ✓ 1文目か2文目で、何を学びたいのかが分かる
- ✓ きっかけ、学びたいこと、将来の目標が一本につながっている
- ✓ 学部、学科、科目、プログラムの名前が正式な名称になっている
- ✓ 様式が出願する年度のもので、筆記具や入力の方法が指定どおり
- ✓ 書いた内容を、すべて自分の言葉で説明できる
- ✓ 大学名を入れ替えると通じない内容になっている
- ✓ 設問が聞いていることのすべてに答えている
- ✓ 指定の字数に収まり、9割前後まで書けている
- ✓ 文体がそろっていて、話し言葉や誤字がない

出願書類に生成AIが作った文章を使うことを、認めていない大学がある（京都大学の特色入試、上智大学など）。扱いは募集要項で確認する

くわしい記事

志望理由書の書き方 https://tokyoshugaku.com/guide-shibou-riyusho/

第5章

自己推薦書・活動報告書

自己推薦書は「どんな人物か」を、活動報告書は「何をしてきたか」を伝える書類です。志望理由書と一緒に求められることが多く、書類審査と面接の両方で使われます。文字数と様式は、大学の募集要項と指定様式が最優先です。

志望理由書・自己推薦書・活動報告書の違い

書類	問われていること	時間の向き	中心になる内容
志望理由書	なぜこの大学・学部で学びたいか	現在から未来	動機、学びの計画、将来の目標
自己推薦書	どんな人物か	過去から現在	強みと、それを示す経験
活動報告書	何をしてきたか	過去	活動の事実、役割、成果

複数の書類を出す場合は、同じエピソードを同じ書き方で繰り返さない

自己推薦書：5つの要素

自己推薦書は、強みを一つに絞り、それを示す経験を「課題と行動」を中心に書きます。性格の説明や実績の羅列ではなく、一つの経験を深く書きます。

自己推薦書の5要素と字数の配分

要素	書くこと	分量	600字	800字	1,200字
1. 強み（結論）	自分を一言で表す強み・資質を一つに絞る	1割	60字	80字	120字
2. 経験	その強みが表れた具体的な出来事。いつ・どこで・誰と・何を	2割	120字	160字	240字
3. 課題と行動	直面した問題と、自分で考えて行った工夫や行動	3割	180字	240字	360字
4. 結果と学び	行動によって何が変わったか。自分自身の変化と気づき	2割	120字	160字	240字
5. 大学での活かし方	その強みを志望学部の学びでどう活かすか	2割	120字	160字	240字

配分の中心は「課題と行動」。指定がある場合は上限の8割から9割、指定がない場合は800字から1,200字が目安

例文｜目立つ実績がない場合（祖母の介護の手伝い・創作）

私の強みは、相手の変化に気づき、先回りして動く力です。高校1年の冬から、同居する祖母の通院の付き添いと食事の準備を週に3日手伝っています。はじめは言われたことをこなすだけでしたが、祖母が食事を残す日が増えたことに気づき、好みと体調を手帳に記録するようにしました。記録を見返すと、硬いものを残す日が多いと分かり、調理法を変えたところ、残す量が減りました。特別な成果ではありませんが、観察して記録し、小さく変えることで相手の状態が変わると実感しました。貴学の看護学部では、患者の変化に気づく観察力が求められると理解しています。家庭で続けてきたこの姿勢を、学びと実習の土台にしたいと考えています。

自己推薦書 提出前のチェックリスト

- ✓ 最初の3行で、強みと経験の両方が分かる
- ✓ 強みは一つに絞られていて、文章全体がその強みの証明になっている
- ✓ 課題と行動の部分が最も長く、具体的な数字や固有名詞が入っている
- ✓ 志望理由書と同じエピソードを繰り返していない
- ✓ 大学の指定文字数の8割から9割に収まっている
- ✓ 誤字脱字がなく、大学名・学部名が正式名称で書かれている

活動報告書：4つの要素

活動報告書は、部活動、委員会、探究学習、ボランティア、資格取得などの活動を、事実と成果を中心に書く書類です。書く活動は1つから3つに絞り、志望学部と関連が深いものを優先します。記入欄の数の指定があれば、それに従います。

活動報告書の4要素

要素	書くこと
1. 活動と役割	活動名、期間、所属、自分の立場
2. 課題	活動の中で直面した問題
3. 行動	課題に対して自分が考え、実際にやったこと。工夫と理由
4. 成果と学び	行動の結果（数字で示せるものは数字で）と、得た気づき

活動報告書 4要素の分量の目安



- 1. 活動と役割 **2割**
- 2. 課題 **2割**
- 3. 行動 **4割**
- 4. 成果と学び **2割**

分量の中心は「行動」

様式別の書き方

様式	目安	書き方
活動ごとの記入欄（200字から300字）	1活動につき欄を1つ使う	4要素を各1文から2文で。行動を最も長く
自由記述（400字から500字）	1活動を深く	4要素をそれぞれ段落にする
自由記述（800字から1,000字）	2活動を400字から500字ずつ	関連の深い活動を先に書く
表形式（活動名・期間・内容）	事実のみ	内容欄に「行動」と「成果」を1文ずつ入れる

数字にできる項目

項目	数字にする例
期間	高校1年4月から3年7月までの2年4か月
頻度・回数	週2回の自主練習、月2回のボランティア、12店舗への聞き取り
人数・規模	部員30人、パート8人、参加者約50人
変化	失点5点から1点、記録40秒更新、正答率4割から8割

数字は正確に書く。面接で聞かれた時に説明できない数字は書かない

例文｜実績がない場合（陸上部・創作）

高校1年から陸上部の長距離に所属しています。大会で入賞した経験はなく、2年の春までは5,000mの記録が1年半伸びていませんでした。私は練習日誌を見直し、週の走行距離は多いものの、ペースを意識した練習がほとんどないことに気づきました。顧問に相談し、週1回のペース走を練習に加え、1kmごとのタイムを記録して翌週の目標を決めるようにしました。半年後、5,000mの自己ベストを40秒更新しました。順位は変わりませんでしたが、記録を見て原因を探し、練習を変えれば結果は動くと実感しました。この経験から、結果が出ない時ほど練習内容を疑う姿勢が身につきました。

活動報告書 提出前のチェックリスト

- ✓ 活動は1つから3つに絞られ、志望学部と関連の深いものが先に書かれている
- ✓ 行動の部分が最も長く、自分で考えて動いたことが書かれている
- ✓ 志望理由書・自己推薦書と同じ文章を繰り返していない
- ✓ 各活動に「活動と役割」「課題」「行動」「成果と学び」の4要素が揃っている
- ✓ 期間・人数・回数・変化などの数字が入っていて、裏付けがある
- ✓ 証明書類の添付が必要な場合は揃っている

くわしい記事

自己推薦書の書き方完全ガイド https://tokyoshugaku.com/guide-jiko-suisensho/

活動報告書の書き方完全ガイド https://tokyoshugaku.com/guide-katsudou-houkokusho/

第6章

小論文

小論文は、設問に対する自分の意見を、理由と根拠で支えて書く文章です。作文や感想文との違いは、「何を感じたか」ではなく「なぜそう考えるか」「それを支える事実は何か」を書く点にあります。

小論文の書き方 ひと目で分かる要点

構成	字数配分の目安	文体	対策を始める目安
序論・本論・結論	**本論に6〜7割**	**常体で統一**	**出願の3か月前**
3部構成	序論は1〜1.5割、結論は1.5〜2割	だ・である。大学の指定がなければ	書いて、添削を受けて、書き直す

小論文と作文の違い

	小論文	作文
書く内容	設問への意見と、その理由・根拠	体験・感想・心情
文体	常体（だ・である）で言い切る	敬体でも常体でも可
避けること	感想だけの文、根拠のない断定	特になし

出題形式は4種類

形式	最初にやること
テーマ型	テーマから論点を一つに絞り、立場を決める
課題文型	筆者の主張を一文で要約してから、賛否と理由を決める
資料型（図表型）	数値の変化や差を「傾向」として読み取る
ミックス型	課題文の主張と資料の傾向をつなげて論点にする

構成と字数の配分

小論文の基本構成と字数の目安

部分	役割	割合	600字	800字	1,200字
序論	設問への答え（立場）と論点を示す	1〜1.5割	60〜90字	80〜120字	120〜180字
本論	理由と具体例で立場を支える。反対意見の検討を入れることもある	6〜7割	360〜420字	480〜560字	720〜840字
結論	立場を再確認し、本論を踏まえて締める	1.5〜2割	90〜120字	120〜160字	180〜240字

小論文800字の骨組みと字数配分



- 序論 **100字**
- 本論1 **300字**
- 本論2 **250字**
- 結論 **150字**

本論2は、理由2と具体例、または反対意見の検討

1,200字の本論 2つのパターン

段落	A「反対意見の検討」	B「問題点と解決策」
本論1	理由1と具体例	現状の問題点と、その原因
本論2	予想される反対意見と、それでも自分の立場が妥当である理由	解決策と、それが有効だと考える理由
本論3（任意）	理由2と具体例	解決策を実行するうえでの課題と対応

序論と結論の書き方

序論の役割は、設問に対する自分の答えを示し、これから何を論じるかを読み手に伝えることです。最初の一文で立場が分かれば十分です。理由や具体例は本論に回します。結論では、序論で示した立場を、本論の内容を踏まえて言い直しま

す。新しい理由や具体例を足す場所ではありません。

序論の例｜テーマ：高校生のスマートフォン利用

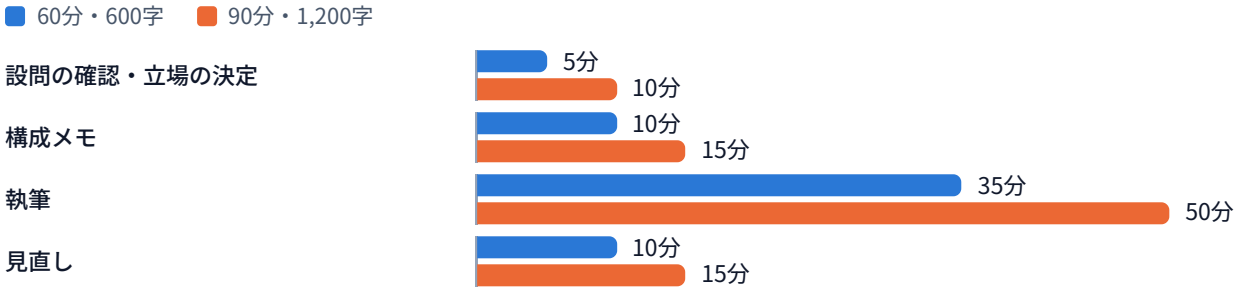
高校生のスマートフォン利用を学校が制限することに、私は反対である。制限よりも、使い方を自分で決める力を育てることが、長い目で見て生徒のためになると考えるからだ。

結論の例｜同じテーマ

以上のように、学校による一律の制限は、使い方を自分で判断する機会を生徒から奪う。必要なのは制限ではなく、利用のルールを生徒自身が考え、守る経験である。私は、学校はその経験の場をつくることに力を注ぐべきだと考える。

試験時間の配分

小論文の試験時間の配分（工程別）



執筆の残り時間が10分を切ったら、本論を切り上げて結論を書く

よくある失敗と確認

小論文のよくある失敗と直し方

失敗	何が起きているか	直し方
設問に答えていない	テーマに関係はあるが、問われたことに答えていない	序論の一文を「設問の言い換え＋立場」で書き直す
序論が長い	一般論や背景説明で全体の3割を使っている	序論は立場と論点だけ。背景は本論の具体例に回す
理由が感想になっている	「大切だと思う」「必要だと感じる」で理由が終わる	「なぜなら〜だからである」と事実や仕組みで説明する
語尾が混在	だ・である と です・ます が混ざる	見直しの最初に語尾だけを通して読む

小論文 提出前・練習後のチェックリスト

- ✓ 最初の一文で、設問への答え（立場）が分かる
- ✓ 本論の各段落に、理由と具体例が一つずつある
- ✓ 結論の立場が序論と一致している
- ✓ 一文は60字前後。80字を超える文がない
- ✓ 序論は全体の1割から1割5分に収まっている
- ✓ 1,000字以上なら、反対意見の検討か問題点と解決策が入っている
- ✓ 語尾は常体で統一されている
- ✓ 原稿用紙のルール（段落冒頭の1マス、句読点の位置）を守っている

くわしい記事

小論文の書き方完全ガイド　https://tokyoshugaku.com/guide-shouronbun/

第7章

面接

総合型選抜の面接は、文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」が必ず行うと定めている評価です。ただし、以前からある方式には、令和11年度入試までの経過措置があります。実施要項のいう面接には、ディベート、集団討論、プレゼンテーション、口頭試問が含まれ、オンラインでの実施も含まれます。形式と時間は大学で違うので、まず志望校の要項の「選抜方法」で確かめます。

総合型選抜の面接の要点

面接などによる評価	主な形式	1人あたりの時間	質問の種類
必ず行う	**5種類**	**約10〜40分**	**6種類**
実施要項の定め。経過措置あり	個人・集団・討論・発表・口頭試問	2027年度入試の要項にある個人面接の例	志望理由から逆質問まで

よく聞かれる質問（例）と答える時の要点

面接の質問は、6つの種類に分けて準備すると抜けがなくなります。質問例はいずれも準備のための例で、特定の大学の出題ではありません。

面接の質問 6つの種類と質問の例

質問の種類	質問の例	答える時の要点
1. 志望理由・大学の理解	本学を志望した理由を教えてください／なぜ他の大学ではなく、本学なのですか／この学部・学科を選んだ理由は何ですか	大学の特色と自分の学びたいことを結びつける。志望理由書と同じ筋で話す
2. 高校生活・活動	高校生活で最も力を入れたことは何ですか／困難だったことと、どう乗り越えたかを教えてください／探究学習では、どんなテーマに取り組みましたか	出来事の説明より、自分の考えと行動を中心に話す
3. 自分自身	自己PRをしてください／長所と短所を教えてください／友人や先生から、どんな人だと言われますか	具体的な場面を1つ添える。短所は向き合い方まで話す
4. 分野と社会への関心	最近、関心を持ったニュースは何ですか／最近読んだ本で、印象に残ったものは何ですか／〇〇という用語を説明してください	事実の紹介で終わらず、自分の考えと理由を述べる
5. 入学後と将来	入学後、何を学びたいですか／卒業後の進路をどう考えていますか／10年後の自分は、どうなっていると思いますか	大学の授業や制度を調べ、高校での経験からつながる計画として話す
6. 確認の質問・逆質問	他の大学も受験していますか／一般選抜も受験する予定ですか／最後に、何か質問はありますか	事実は正直に、簡潔に答える

答え方の型（結論・理由・具体例）

面接の答え方の型（結論から話す）

1	2	3	4
結論	**理由**	**具体例**	**まとめ**
質問への答えを一文で言う	そう考える理由を一つか二つ述べる	理由を裏付ける自分の経験や、調べたことを話す	大学での学びにどうつながるかを短く添える

どの質問にも使える基本の型。1つの答えは短くまとめ、続きは面接官の質問に任せる

学長からのアドバイス

面接では「結論を最初に言う」癖をつけましょう。

緊張下でも論理が崩れず、相手に伝わりやすくなります。

「結論→理由→具体例→結論」のPREP法が基本です。

回答例｜「本学を志望した理由を教えてください」（構成を示すための創作）

私が貴学の〇〇学部を志望するのは、食品ロスを減らす仕組みを、店と消費者の両方の側から学びたいからです。文化祭の模擬店で、売れ残った食品を捨てたことがきっかけで、この問題に関心を持ちました。高校の探究学習では、自治体の資料で、家庭から出る食品ロスの内訳を調べました。近くの食品店には、値引きや発注の工夫について聞き取りを行いました。貴学には、消費者の行動を調査で学ぶ演習があります。自分で調べた課題を、この演習でさらに深めたいと考えています。

答えの後に続けて聞かれること（例）

続けて聞かれること（例）	備え方
なぜ、そう考えたのですか	考えのもとになった経験や資料を、1つ言えるようにする
具体的には、どういうことですか	いつ、どこで、何をしたかを数字や場面で説明する
ほかの方法は考えましたか	選ばなかった方法と、選ばなかった理由を整理する
うまくいかなかった点はありますか	失敗と、その後に変えたことをセットで話す
それを大学でどう生かしますか	学びたい授業や分野と結びつけて話す

逆質問（「最後に質問はありますか」）の考え方

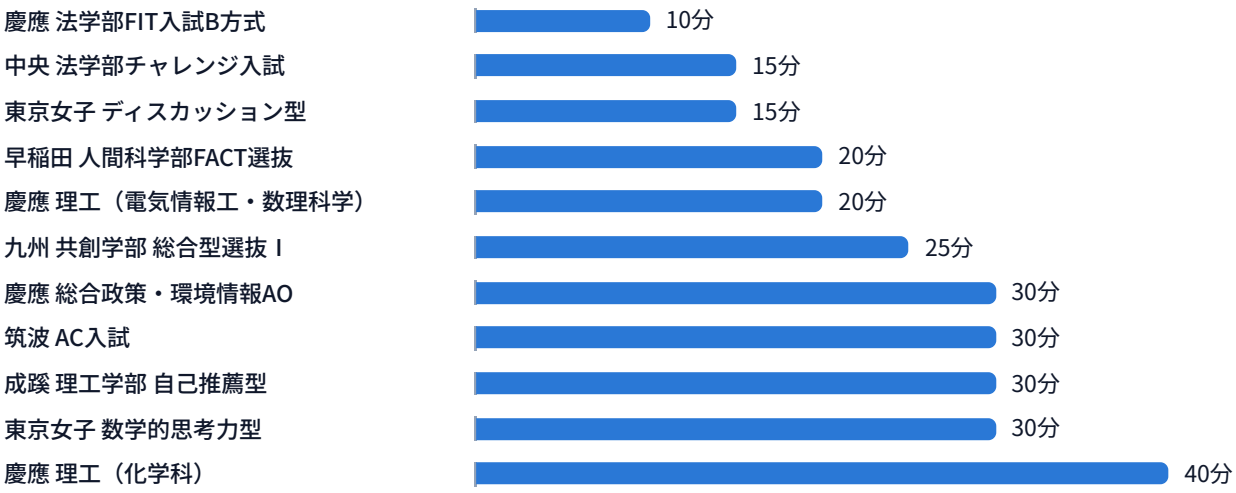
区分	質問の例	理由
聞きやすい質問	〇〇の分野を学ぶうえで、入学までに読んでおくとよい本はありますか	学ぶ意欲が伝わり、入学前の準備にも役立つ
聞きやすい質問	〇〇について調べる中で△△に関心を持ちました。学部で学ぶ機会はありますか	自分の関心と大学の学びを結びつけている
避けたい質問	学生は何人くらいいますか	大学のウェブサイトや要項を読めば分かる
避けたい質問	単位は取りやすいですか	学ぶ姿勢に疑問を持たれやすい

面接の形式と時間

面接の5つの形式

形式	進め方	準備の要点
個人面接	受験生1人に対して面接官が質問する。提出書類の内容を詳しく聞かれる	書類の一文ごとに「なぜ」と自問し、答えを用意する
集団面接（グループ面接）	複数の受験生が同じ場で、順番に質問に答える	1つの答えを短くする。前の人と内容が重なっても、自分の理由を話す
グループディスカッション（集団討論）	与えられたテーマについて、受験生どうしで話し合う	司会などの役割にこだわらず、議論を前に進める発言を練習する
プレゼンテーション	事前の課題や自分の探究の内容を発表し、質疑に答える	制限時間を計って練習し、聞かれそうな質問を書き出す
口頭試問	志望分野の基礎知識や、小論文・提出書類の内容について、問答で考え方を確かめる	高校の学習内容と、志望分野の入門書を復習する

総合型選抜の面接時間の例（1人あたり）



各大学の2027年度入試の要項に「約」「程度」を付けて書かれている時間。年度によって変わるため、出願する年度の要項で確認する

当日の流れと、うまく答えられない時の対応

入室から退室までの流れ（一般的な例）

場面	動き	気をつけること
到着・控室	集合時刻より早めに着き、控室で静かに待つ	スマートフォンの電源を切る。控室でも私語を控え、落ち着いて過ごす
入室	ドアをノックし、「どうぞ」と言われてから「失礼します」と入る	ドアは静かに閉める。係の人の案内がある時は、その指示に従う
あいさつ・着席	いすの横で受験番号と氏名を伝え、すすめられてから座る	背筋を伸ばし、手はひざの上に置く
質疑	質問した面接官のほうを見て答える	質問は最後まで聞く。語尾まではっきり話す
退室	「ありがとうございました」と礼を言い、ドアの前で一礼して出る	建物を出るまで気を抜かない

入退室のやり方は、会場のつくりや大学の進め方によって変わる。当日の案内や係の人の指示がある時は、そちらを優先する

すぐに答えが浮かばない時は、「少し考える時間をいただけますか」と伝えて考えます。知らないことを聞かれた時は、知らないと正直に伝えたうえで、関連して知っていることや、自分ならどう考えるかを話します。黙り込んだり、知っているふりをしたりしないことが大切です。

面接の前日までに確かめること

- ✓ 受験票と、要項で指定された持ち物をそろえた
- ✓ 会場までの経路と所要時間、集合時刻を確かめた
- ✓ 服装と靴を前日に用意した
- ✓ 提出した志望理由書・活動報告書の控えを読み直した
- ✓ 交通機関が遅れた時の連絡先を控えた
- ✓ 筆記用具、時計、ハンカチをかばんに入れた

服装は、制服がある人は制服。制服がない人や既卒の人は、落ち着いた色のジャケットやスーツ。要項に指定がある時はそれに従う

くわしい記事

総合型選抜の面接 https://tokyoshugaku.com/guide-mensetsu/

第 8 章

口頭試問・課題レポート

口頭試問は、試験官の質問にその場で口頭で答える試験で、制度の上では面接の一つの形です。課題レポートは、大学が示した課題について調べ、根拠を示して自分の考えを論じる文章です。実施するかどうかと内容は、大学・方式によって違います。

口頭試問と面接の違い

口頭試問と一般的な面接の違い

項目	口頭試問	一般的な面接
主に確かめること	基礎学力、志望分野の理解、筋道を立てて考える力	志望動機、人物、意欲、大学との相性
質問の中心	教科や専門分野の内容、課題や資料への考え、書類に書いた内容の根拠	志望理由、高校での活動、入学後の計画、将来像
答えの性質	正解や妥当な範囲がある質問が含まれる	人によって答えが違う
準備の中心	教科の基礎と志望分野の学習、声に出して説明する練習	自己分析、志望理由の整理、模擬面接

口頭試問の5つの型と準備

型	内容	準備の中心
教科の基礎を問う型	数学、理科、英語など、高校で学ぶ教科の理解を口頭で確かめる	教科書の定義、公式、定理を、何も見ずに説明する
課題・小論文をもとに問う型	当日書いた小論文や、与えられた課題の内容について質問する	小論文を書いたら、自分の主張への反論と、それに対する答えを考える
提出書類を掘り下げる型	志望理由書や活動報告書に書いた内容の根拠や背景を質問する	書類の一文ごとに「なぜ」「たとえば」と自分に問い、答えをメモにする
発表のあとに問う型	研究や活動の発表を行い、その内容について質問を受ける	発表を時間内に収める。目的、方法、結果、残った課題を説明できるようにする
外国語を使う型	日本語に加えて、英語などで質問と応答を行う	志望理由と関心のあるテーマを、短い文で外国語でも話せるようにする

回答の例（練習用の質問。特定の大学の出題ではありません）

質問：円安が進むと、輸出をする企業にはどのような影響がありますか。

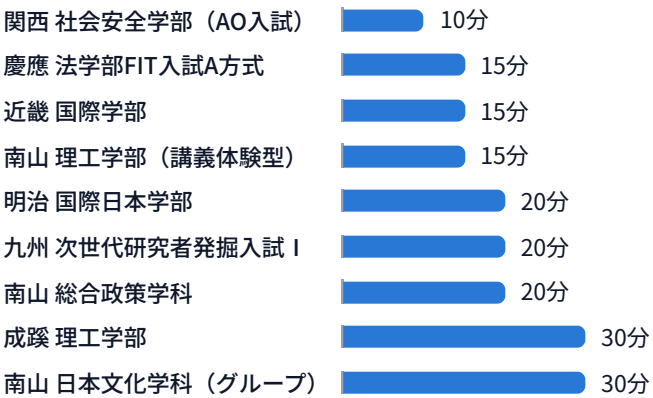
結論：輸出をする企業には、売上の面で有利に働くと考えます。

理由：外国の通貨で受け取った代金を円に換える時に、受け取る円の額が増えるからです。

具体例：1ドルの商品を売った場合、1ドル100円なら100円ですが、1ドル150円なら150円を受け取れます。

補足：ただし、原材料を輸入している企業は費用も増えます。影響は企業によって違うと考えます。

口頭試問の時間の例（2027年度入試）



慶應義塾大学と近畿大学は「約」、九州大学と成蹊大学は「程度」が付く。南山大学の理工学部は個人で行う。出典：各大学の2027年度入試の要項

答えられない時の対応

状況	対応	言い方の例
質問の意味が分からない	聞き返して確かめる	「〇〇という意味でしょうか」
考える時間がほしい	時間をもらう	「少し考える時間をいただけますか」
一部だけ分かる	分かる範囲と分からない範囲を分けて答える	「〇〇までは説明できます。その先は確かではありませんが、△△だと考えます」
答えたあとで誤りに気づいた	その場で訂正する	「先ほどの答えを訂正させてください」

課題レポート

課題レポートは、出願書類の一つとして、または選考当日の課題として課されます。小論文との違いは、資料を調べて書き直す時間があることと、最後に参考文献の一覧を付けることです。字数や枚数の指定は大学ごとに違います。

課題レポートを書き上げるまでの手順

1. **課題の読み取り**
   対象、求められている作業、条件に分ける
2. **資料集め**
   統計、本、新聞などを読み、出典と一緒にメモする
3. **構成**
   課題への答えを先に決め、骨組みを作る
4. **下書き**
   事実と考察を分け、字数配分に沿って書く
5. **推敲**
   日を置いて読み直し、人に読んでもらって直す

構成の型：序論・本論・結論

部分	書くこと
序論	何について論じるか、課題にどう答えるか、どの順で述べるか
本論（事実の整理）	統計や文献から分かる事実。出典を示す
本論（考察と主張）	事実から言えること、自分の主張、反対の立場への応答
結論	序論で示した答えを、本論を踏まえて言い直す。新しい話題は足さない

課題レポート 2,000字の字数配分の例



- 序論 **300字**
- 本論（事実の整理） **700字**
- 本論（考察と主張） **700字**
- 結論 **300字**

配分は一つの例。課題文が求める内容に合わせて調整する

課題レポート 提出前のチェックリスト

- ✓ 課題文が求めている作業（説明・考察・論じるなど）に、すべて答えている
- ✓ 序論で示した答えと、結論が対応している
- ✓ 事実を述べる文と、自分の考えを述べる文が分かれている
- ✓ 引用はかぎ括弧で区別し、出典を示している
- ✓ 本文で使った資料が、参考文献の一覧にすべて載っている
- ✓ 字数、用紙、枚数、手書きかパソコンかが、要項の指定どおりになっている
- ✓ 生成AIの扱いについて、要項の記載を確認した
- ✓ 控えを取り、面接で説明できるように読み返した

くわしい記事

大学入試の口頭試問とは　https://tokyoshugaku.com/guide-koutoushimon/
課題レポートの書き方　https://tokyoshugaku.com/guide-kadai-report/

第 9 章

出願前のチェックリスト

出願の前に、条件と手続きを一つずつ確かめます。募集要項は、受験する年度のものを読んでください。前の年度から、出願資格や日程が変わっていることがあります。

出願資格と条件の確認

- 出願資格（評定、英語資格、履修科目、卒業年度、欠席日数）を満たしている
- 提出書類の様式と字数。評価書や推薦書が要るか
- 選考方法（小論文、面接、筆記試験、共通テスト）
- 専願か、併願できるか。入学手続の期限と納入金
- エントリーや事前課題など、出願より前の手続の日程
- 出願する年度の募集要項で確かめた（前年度の情報のままにしていない）

出願の手続きの確認

- Web登録、検定料の支払い、書類の郵送のそれぞれの締切を書き出した
- 調査書や推薦書など、高校に頼む書類がいつ受け取れるかを先生に確認した
- 選考日と入学手続の締切が、ほかの出願先と重ならない
- 郵送は必着か消印有効かを確かめた
- 資格・検定の証明書は、大学が指定する形式でそろっている
- 大学入学共通テストの出願を済ませた

準備ができているかの確認

書類・面接・学力の準備のチェックリスト

- 志望大学の募集要項を読み、出願資格と選抜方法を説明できる
- 「なぜこの大学・学部か」を、大学名を入れ替えられない内容で言える
- 活動実績を、動機・行動・学びの順で説明できる
- 志望理由書の内容について「なぜ」を三回聞かれても答えられる
- 評定の基準と、対象になる成績の時期を確認した
- アドミッション・ポリシーを自分の言葉で要約できる
- 志望理由につながる自分の経験を、一つ具体的に話せる
- 志望理由書を第三者に読んでもらい、書き直した
- 課される小論文、口頭試問、共通テストなどの準備を始めている
- 不合格だった場合に出願する入試を調べ、一般選抜の学習を続けている

印の数で合否が決まるわけではない。印がつかない項目が、これから時間を使う所

つまずきやすい進め方と直し方

つまずきやすい進め方	起きること	直し方
募集要項を読まずに準備を始める	出願資格や提出書類の不足に、出願の直前で気づく	最初に出願資格、選抜方法、日程を読み、一覧にまとめる
一人で書いて一人で仕上げる	伝わらない箇所に自分では気づけない	学校の先生など第三者に読んでもらい、質問された所を直す
専願・併願の条件を確かめない	出願できない組み合わせで計画が崩れる	募集要項の「出願資格」と「併願」の項目を確認する
総合型選抜だけに絞る	不合格の後、次の入試までの準備が足りない	一般選抜の学習を続け、学校推薦型選抜の要件も調べておく

不合格だった時の動き方

総合型選抜で不合格になっても、同じ年度の入試は続きます。大切なのは、総合型選抜の結果が出る前に共通テストの出願が締め切られることです。総合型選抜を第一に考えていても、共通テストには出願しておくと選択肢が残ります。

総合型選抜で不合格だった時の切り替えの流れ（2027年度入試）

2026年9月15日〜10月2日
大学入学共通テストの出願
総合型選抜の結果が出る前に締め切られる。共通テストを使う入試に備えて出願しておく

2026年11月1日以降
総合型選抜の合格発表／学校推薦型選抜の出願開始
不合格なら、公募制の学校推薦型選抜と、出願期間が残っている総合型選抜を確認する

2026年12月1日以降
学校推薦型選抜の合格発表
結果を待つ間も一般選抜の学習を続ける

2027年1月16日・17日
大学入学共通テスト（本試験）
共通テストを使う入試で必要になる

2027年2月1日〜3月25日
各大学の個別試験
一般選抜の教科の試験。合格者の発表は3月31日まで

文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」、大学入試センター「令和9年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」による全国共通の基準。実際の日程は大学ごとに違う

不合格が分かった週にやること

1. **出願できる入試を洗い出す**
学校推薦型選抜、他大学の総合型選抜、一般選抜の出願期間と要件を一覧にする

2. **担任の先生に相談する**
学校推薦型選抜は校内の手続きと推薦書が必要になる。早く伝える

3. **書類と面接を振り返る**
どの段階で不合格だったかを確かめ、次の出願先に合わせて書き直す

4. **学習計画を組み直す**
共通テストと個別試験までの期間で、科目ごとの優先順位を決める

くわしい記事

総合型選抜で受かる人・落ちる人の違い　https://tokyoshugaku.com/guide-souken-success-fail/

よくある質問

Q 総合型選抜の準備はいつから始めればいいですか？
A 高校2年生のうちに、自己分析と大学研究を始めるのが目安です。2027年度入試では出願が2026年9月1日以降に始まるため、志望理由書などの書類は高3の夏に仕上げます。評定は高1の最初の成績から入るので、成績の維持は高1から必要です。

Q 総合型選抜に評定平均は必要ですか？
A 大学・方式によります。2027年度入試の例では、慶應義塾大学の法学部FIT入試B方式は、指定の各教科と全体が4.0以上です。一方、FIT入試A方式には評定の条件がありません。基準がない方式でも調査書は提出するため、成績は評価の資料になります。

Q 総合型選抜は併願できますか？
A 方式によります。中央大学の総合型選抜や立教大学の自由選抜入試は、他大学と併願できます。関西学院大学や大阪大学の総合型選抜は、合格したら入学することを条件にした専願です。出願前に、募集要項の「出願資格」と併願の項目を確かめてください。

Q 総合型選抜に学力試験はありませんか？
A 筆記試験がない方式もありますが、学力が評価されない入試ではありません。実施要項は、書類に加えて、教科の試験、共通テスト、小論文・面接・口頭試問など、資格・検定試験のうち少なくとも一つで学力を評価するよう定めています。

Q 目立つ実績がなくても総合型選抜で受かりますか？

A 受かる可能性はあります。見られるのは実績の大きさそのものではなく、取り組みの中で何を考え、どう行動し、何を学んだかです。ただし、出願資格として実績や資格を求める方式もあるので、募集要項を確認してください。

Q 総合型選抜に落ちたら、学校推薦型選抜や一般選抜は受けられますか？

A 出願資格を満たし、出願期間に間に合えば受けられます。2027年度入試では、学校推薦型選抜の出願は2026年11月1日以降に始まります。各大学の個別試験は2027年2月1日から3月25日の間です。学校推薦型選抜には学校長の推薦が必要です。

Q 総合型選抜で受かりやすい大学はありますか？

A 大学名だけで受かりやすさは判断できません。倍率は大学・学部・方式ごとに違い、年度によっても変わります。倍率の低さではなく、出願資格を満たせるか、選考方法が自分の強みと合うかで選んでください。

Q 総合型選抜のために塾に行くべきですか？

A 必須ではありません。募集要項を自分で読み、高校の先生に書類の添削と面接の練習を十分に頼めるなら、塾を使わずに準備できます。添削や模擬面接の回数を高校で確保しにくい場合は、塾が助けになります。

無料相談の案内・監修者・出典

このマニュアルの内容を、自分の志望校に当てはめて整理したい方へ

学長による無料相談（60分）

https://tokyoshugaku.com/free-consultation/

監修者

家近 亮子 （いえちか りょうこ）

東京修学館 学長

監修者の経歴

項目	内容
学位	慶應義塾大学 法学研究科 政治学専攻 博士課程修了。博士（法学）
現職	敬愛大学 国際学部 特任名誉教授／放送大学 客員教授
専門	東アジア近現代政治史・蒋介石研究・日中関係史
受賞	第8回 樫山純三賞〔一般書部門〕（『蒋介石の外交戦略と日中戦争』岩波書店 2012年）

プロフィール：https://tokyoshugaku.com/ryokoiechika/

出典

- 文部科学省「令和9年度大学入学者選抜実施要項」（令和8年5月27日付け通知）
- 文部科学省「令和7年度国公私立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」（令和7年11月26日）
- 大学入試センター「令和9年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」（共通テストの出願期間）
- 各大学の2027年度入試の要項（募集要項・入学試験要項）。大学ごとの出典は、東京修学館のサイトの大学別の記事に記載しています

日程や条件は大学・方式ごとに違い、年度によって変わります。出願の際は、出願する年度の募集要項で確かめてください。発行：東京修学館　https://tokyoshugaku.com/